

P24

金属アレルギー・環境ホルモン対策 のための歯科診療について

○大西 敏雄

みさとデンタルクリニック

歯科高度先進医療研究会

（目的） 歯科診療において現在問題になっているのが金属アレルギー・環境ホルモンである。しかし、環境ホルモンに関しては歯科材料のレジン系材料が問題になっているが安全とされ、使用されている。そして、もう一つが金属アレルギーの問題である。当医院では薬物アレルギーの患者さんは以前から多く見受けられたが、この3年間に8名もの金属アレルギーと思われる患者が来院した。そこで、今回はこの8名の患者さんのアレルゲンとなった金属元素と大学における金属アレルギーと口腔内修復物の成分組成に関する調査を比較検討し、代替医療としての歯科診療を検討するものである。

（方法） 3年間に来院したアレルギー患者を対象とした。1.アレルギーがあると来院した患者数とそのうち金属が関与していると思われる患者数 2.症状と患者数 3.アレルゲンとなった金属元素と患者数 4.アレルゲンと口腔内の金属が一致した合金別患者数

（成績） 1.大学では対象のうち金属が関与していると思われるものは約43%で多く、当医院では約14%である。2.症状は両者とも皮膚炎・掌蹠膿疱症が多く、口腔内に症状が限局している患者は少なかった。3.Hg,Co,Ni,Crが多く、次にPd,Sn,Zn,Cuの順になった。4.金銀パラジウム合金、コバルトクロムニッケル合金がアレルゲンと口腔内の金属元素が一致した。

（結論） 今回の調査において金属アレルギーがある場合には保険での金属はまったくと言って使用できない。そのために、それに変わる金属あるいは他のものが必要である。そこで、現在考えられているものがTiであり、審美性では環境ホルモンも考慮に入れるとポーセレンである。Tiは口腔内でイオン化しても酸素と結合し易いためアレルギーになる確率が低いものと考えられている。当研究会ではこの2つの材料を加工する器械を開発し、安価に提供できる歯科医療の代替医療となり得ると考える。